

第5回 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構分科会 議事要旨

1. 日時：平成28年7月29日（金） 14：00－16：00

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川分科会長、田辺分科会長代理、青木委員、関委員、白坂委員

(2) 事務局（内閣府宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、高見参事官、行松参事官

(3) 説明者等（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）

川端理事、山浦理事

4. 議事要旨

(1) 宇宙航空研究開発機構の平成27年度業務実績評価について

前回の分科会を踏まえて各委員から提出された意見をまとめた「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構平成27年度業務実績評価に関する意見書（案）」について事務局から説明が行われた。当該説明を踏まえ、委員から以下のような意見等があった。（以下、○意見等、●JAXAの回答）

○技術、コスト、納期等の観点からの研究開発の重要性が指摘されているが、今後このような取り組みを推進する予定はあるか。

●次期技術試験衛星では、国際競争力を持つ衛星の要素を取り入れている。H-3 ロケットでも市場を意識した展開を考えている。そのほか、視野を広げ、価値観を変え、仕事の仕方を変えるという取り組みを進めているところ。

○JAXAには、宇宙とは関係の薄い分野に人材を送り出す仕組みはあるのか。

●出せる範囲は限られているが、大学や商社など、分野の異なるところに行き、産学連携のイノベーションを学び戻ってくるような仕組みがある。

○有人宇宙探査の評価について、創薬ベンチャーとの有償契約の締結は、何に対する難しさであるのか。それがどの程度珍しかったり、どの程度のハードルを越えたことであるのか。

●JAXAが開発した、日本だけのたんぱく質の生成装置に対し、ここで大きな果実として結実したのがこの契約である。創薬に至るのは随分先だが、このステップにこの企業を呼び込んだということ自体がとてつもないことだと認識している。

本日の議論を踏まえた「国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構平成27年度業務実績評価に関する意見書（案）」の修正について、分科会長一任となった。

以上